

井上克人先生 略年譜および業績一覧¹

略歴

1949 (昭和24) 年 11月 8日 神戸市に生まれる。

【学歴】

1959 (昭和31) 年4月1日 神戸市立湊山小学校入学
1962 (昭和37) 年3月31日 神戸市立湊山小学校卒業
1962 (昭和37) 年4月1日 私立報徳学園中等部入学
1965 (昭和40) 年3月31日 私立報徳学園中等部卒業
1965 (昭和40) 年4月1日 私立報徳学園高等学校入学
1968 (昭和43) 年3月31日 私立報徳学園高等学校卒業
1968 (昭和43) 年4月1日 関西大学文学部・哲学科入学
1972 (昭和47) 年3月31日 関西大学文学部・哲学科卒業
1972 (昭和47) 年4月1日 関西大学大学院文学研究科 哲学専攻・修士課程入学
1974 (昭和49) 年3月31日 関西大学大学院文学研究科 哲学専攻・修士課程修了
1974 (昭和49) 年4月1日 関西大学大学院文学研究科 哲学専攻・博士課程入学
1977 (昭和52) 年3月31日 関西大学大学院文学研究科 哲学専攻・博士課程単位取得後退学

【学位】

1974 (昭和49) 年3月31日 文学修士 (関西大学)
論題：ハイデッガーの藝術論
2002 (平成14) 年9月27日 博士 (文学) 関西大学
論題：修と証の〈あいだ〉—特に道元の禅思想を中心に—

【職歴】

1986 (昭和61) 年4月1日 関西大学専任講師 (文学部)

¹ 井上克人教授退職記念論文集刊行委員会編『井上克人教授退職記念論文集』(代表・酒井真道 2020 年 2 月) に加筆

1987 (昭和62) 年4月1日 関西大学助教授 (文学部)

1994 (平成6) 年4月1日 関西大学教授 (文学部)

2017 (平成29) 年3月31日 関西大学 (文学部) 定年退職 名誉教授

2017 (平成29) 年4月1日～2020 (令和2) 年3月31日 関西大学 (文学部) 特別契約教授

【在外研究】

1993 (平成5) 年4月1日～1994 (平成6) 年3月31日 (1年) ドイツ・ヴッパータール大学

2004 (平成16) 年10月1日～2005 (平成17) 年3月31日 (6か月) ウィーン大学

【非常勤講師歴】

1977 (昭和52) 年4月1日～1986 (昭和61) 年3月31日 大阪芸術大学 英語・ドイツ語担当

1978 (昭和53) 年4月1日～1986 (昭和61) 年3月31日 近畿大学 ドイツ語担当

1986 (昭和61) 年4月1日～1993 (平成5) 年3月31日 近畿大学 哲学担当

1978 (昭和53) 年4月1日～1986 (昭和61) 年3月31日 大阪経済法科大学 ドイツ語担当

1982 (昭和57) 年4月1日～1986 (昭和61) 年3月31日 浪速短期大学 英語・哲学担当

1983 (昭和58) 年4月1日～1986 (昭和61) 年3月31日 関西大学文学部工学部 哲学 (教養科目) 担当

1996 (平成8) 年4月1日～2004 (平成16) 年3月31日 福井大学教育学部 日本思想史 I・II 担当 (集中講義)

1996 (平成8) 年4月1日～2004 (平成16) 年3月31日 名張市立看護専門学校 哲学担当

1999 (平成11) 年4月1日～2004 (平成16) 年3月31日 京都大学文学部 日本哲学史講読担当

2003 (平成15) 年4月1日～2004 (平成16) 年3月31日 大阪府立大学大学院 (博士前期課程) 日本思想文化特論A担当 (集中講義) (7月29日～31日)

2004 (平成16) 年4月1日～2005 (平成17) 年3月31日 大阪府立大学大学院 (博士前期課程) 日本思想文化特論 B担当 (集中講義) (7月28日～30日)

2009 (平成21) 年4月1日～2011 (平成23) 年3月31日 京都大学文学研究科 文学部大学院 日本哲学史特殊講義担当

2015 (平成27) 年4月1日～2018 (平成30) 年3月31日 同志社大学文学部 大学院

宗教哲学・哲学特論担当

【研究員】

2013（平成25）年4月1日～2015（平成27）年3月31日 国際日本文化研究センター
共同研究員（研究代表者：末木文美士氏 幹事：稲賀繁美氏）

テーマ：日本仏教の比較思想的研究

2022（令和4）年4月1日～2023（令和5）年2月 京都大学人文科学研究所禅研究班
顧問研究員（研究代表者：何燕生）

テーマ：語りえぬものを語る行為とその思想表現に関する学際的研究—禅の言葉と翻訳を中心課題として—

【その他、委員】

2015（平成27）年6月4日～2016（平成28）年11月30日 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費委員会専門委員（任期2年）

【主な所属学会】

日本印度学仏教学会（理事・評議員 2003年～）、比較思想学会（理事 2004年～）、宗教哲学会（理事 2008年～）、西田哲学会（理事 2012年～）、関西哲学会（委員 1999年～）、日本現象学会（委員 2000年～）、日本哲学会（常任編集委員 2011年～2015年）、関西倫理学会（委員 2001年～2013年）、日本宗教学会、東西宗教交流学会、実存思想協会、日本思想史学会、宗教倫理学会、ハイデッガー・フォーラム、東アジア文化交渉学会

【社会貢献】

大阪府立交野高等学校協議会委員（2005年4月1日～）

【その他、顧問】

関西大学体育会弓道部 顧問 2004（平成16）年4月1日～2018（平成30）年3月31日
2018（平成30）年3月25日、関西大学体育OB・OG会より「貢献賞」を受賞

研究業績一覧

【著者（単著）】

1. 『露現と覆蔵—現象学から宗教哲学へ—』[関西大学東西学術研究所研究叢刊二十] 関西大学東西学術研究所編 関西大学出版部 2003年2月（総ページ数369頁）
2. 『西田幾多郎と明治の精神』[関西大学東西学術研究所研究叢刊三十九] 関西大学東西学術研究所編 関西大学出版部 2011年3月（総ページ数289頁）
3. 『〈時〉と〈鏡〉・超越的覆蔵性の哲学—道元・西田・大拙・ハイデガーの思索をめぐって—』[関西大学東西学術研究所研究叢刊五十] 関西大学東西学術研究所編 関西大学出版部 2015年3月（総ページ数474頁）
4. [中国語訳]『西田几多郎与明治的精神』（王海訳）厦門大学出版社 2018年5月（総ページ数155頁）
5. 『詩と哲学のあわい—宗教哲学・比較思想論攷—』 関西大学出版部 2023年1月（総ページ数499頁）

【著者（編著）】

1. 『「大乘起信論」の研究』[関西大学東西学術研究所研究叢刊15] 編著（8人）井上克人（編者）、吾妻重二、川崎幸夫、木村宣彰、小林信彦、藺田香融、丹治昭義、ツルティム・ケサン・カンカル 関西大学東西学術研究所編 関西大学出版部 2000年8月（総ページ数414頁）
2. 『「大乘起信論」と法蔵教学の実証的研究』平成13年度～平成15年度（2001年～2003年）科学研究費補助金〔基盤研究(B)(2)〕研究成果報告書（課題番号：13410006）編著（5人）井上克人（編者）、丹治昭義、吾妻重二、木村宣彰、石井公成（総ページ数313頁）
3. 『豊穰なる明治』[関西大学東西学術研究所研究叢刊41] 編著（8人）井上克人（編者）、木岡伸夫、若林雅哉、伊藤徹、高橋文博、中村春作、長妻三佐雄、小椋章浩 関西大学東西学術研究所編 関西大学出版部 2012年1月（総ページ数262頁）
4. 『朱子学と近世・近代の東アジア』[日本学研究叢書9] 編著（17人）井上克人（編者）、黄俊傑（編者）、陶徳民（編者）、朱茂男、陳来、柴田篤、吾妻重二、緒方賢一、徐興慶、楊儒賓、田尻祐一郎、崔在穆、蔡振豊、張崑將、宮嶋博

史、恩田裕正、張品端 臺大出版中心 2012年3月 (総ページ数563頁)

5. 『近世近代日中文化交渉の諸相』〔関西大学東西学術研究所研究叢書第4号〕編著 (8人) 井上克人 (編者) 陶徳民、中谷伸生、藤田高夫、松浦章、呂超、辜承堯、日並彩乃 関西大学東西学術研究所編 ユニウス2017年3月 (総ページ数230頁)
6. 『東アジア圏における文化交渉の軌跡と展望』〔関西大学東西学術研究所研究叢書第7号〕編著 (10名) 井上克人 (編者)、陶徳民、中谷伸生、藤田高夫、松浦章、熊野弘子、桑野梓、末村正代、豊田郁、中村朋美 関西大学東西学術研究所編 ユニウス 2020年3月 (総ページ数296頁)

【著書 (分担執筆)】

1. 『西田哲学を学ぶ人のために』共著 (18人) 大峯顕 (編者)、井上克人、アンドリュー・フィーンバーク、有坂陽子、西川富雄、溝口宏平、山形頼洋、クラス・リーゼンフーバー、新田義弘、中岡成文、有福孝岳、藤田正勝、常俊宗三郎、ヤン・ヴァン・ブラフト、森哲郎、長谷正當、大橋良介、美濃部仁 世界思想社 1996年 2月 担当 261～275頁 (総ページ数316頁)
2. 『「根拠」への探究—近代日本の宗教思想の山並み』〔シリーズ・近代日本の知第5巻〕、共著 (13人) 細谷昌志 (編者)、井上克人、氣多雅子、西村恵信、ブレット・デービス、北野裕通、尾上新太郎、嶋田義仁、中村生雄、仲原孝、棚次正和、大越愛子、小野真 晃洋書房 2000年 12月 担当 27～50頁 (総ページ数283頁)
3. 『哲学は何を問うべきか』共著 (17人) 竹市明弘・小浜善信 (編者)、井上克人、片柳榮一、山本幾生、安部浩、有馬善一、加藤泰史、宮原勇、中山善樹、山本精一、品川哲彦、望月俊孝、須藤訓任、高橋憲雄、木岡伸夫、松本啓二郎 晃洋書房 2005年 10月 担当 285～304頁 (総ページ数340頁)
4. 『京都学派の遺産—生と死と環境—』共著 (5人) 小川侃 (編者)、井上克人、安倍浩、嶺秀樹、松井三郎 晃洋書房 2008年 6月 担当 27～70頁 (総ページ数203頁)
5. 『東西学術研究所創立 60周年記念論文集』共著 (27人) 松浦章、吾妻重二、柏木治、木岡伸夫、芝田豊彦、関屋俊彦、中谷伸生、橋本敬造、長谷部剛、平

- 田渡、藤田高夫、増田周子、森隆男、森部豊、井上克人、内田慶市、大島薫、奥村佳代子、パトリック・オニール、熊野建、芝井敬司、沈国威、二階堂善弘、蜷川順子、萩野脩二、浜本隆志、森貴史、和田葉子 関西大学出版部 2011年10月 担当1～18頁 (総ページ数558頁)
6. 『『善の研究』の百年—世界へ／世界から』共著 (23人) 藤田正勝 (編者)、井上克人、赤松明彦、城阪真治、張政遠、日高明、守津隆、アンドレア・レオナルディ、中嶋優太、太田裕信、熊谷征一郎、水野友晴、満原健、杉本耕一、竹花洋佑、林永強、朝倉友海、廖欽彬、李光来、ジェームズ・ハイジック、遊佐道子、氣多雅子、佐藤昭裕 京都大学学術出版会 2011年11月 担当17～39頁 (総ページ数406頁)
7. 『道元と曹洞宗がわかる本』共著 (15人) 井上克人、佐藤秀孝、角田泰隆、水野弥穂子、能勢隆之、湯田豊、百瀬明治、川口高風、中尾良信、佐々昌樹、阿部珪仁、須田道輝、安藤嘉則、高梨尚之、菊地亮道 大法輪閣編集部編 大法輪閣 2013年 1月 担当87～101頁 (総ページ数206頁)
8. *Komparative Philosophie der Gegenwart—Transkulturelles Denken im Zeitalter der Globalisierung* (6人) (Hrsg. Hisaki HASHI, Werner GABRIEL), Katsuhito INOUE, Maria REIS HABITO, Kurt SMOLAK, Jorinde EBERT, Passagen Verlag, Wien 2007年 担当S. 79-104 (総ページ数124頁)
9. *A ESCOLA DE KYOTO E O PERIGO DA TÉCNICA* (8人) (org. Zeljko Loparic), Katsuhito Inoue, Antonio Florentino Neto, Oswaldo Giacoia Junior, José Carlos Michelazzo, Takao Todoroki, Marcos Lutz Müller, Rolf Elberfeld, DWW EDITORIAL, São Paulo 2009年 担当pp. 19-38 (総ページ数246頁)
10. *Interdisziplinäre Philosophie der Gegenwart—Festgabe für Werner Gabriel zu seinem 65. Geburtstag* (10人) (Hrsg. Hisaki HASHI), Katsuhito INOUE, Jameleddine BEN-ABDELJELIL, Karen GLOY, Stephan HALTMAYER, Heinz KRUMPEL, Erhard OESER, Herbert PIETSCHMANN, Peter REVERS, Hans Rainer SEPP PETER LANG 2009年 担当S. 59-69 (総ページ数211頁)
Titel: Die metaphysische Systemlehre im Neo-Konfuzianismus bei *Zhūzǐ*
11. *Globalisierung des Denkens in Ost und West* (7人) (Hrsg. Friedrich G. WALLNER, HASHI Hisaki), INOUE Katsuhito, SASAKI Gensō, YORIZUMI Mitsuko, Werner GABRIEL, TANI Tōru Verlag Traugott Bautz GmbH 2011年 担当S. 65-79 (総ページ数174頁)

Titel: Die Philosophie Nishidas und Einflüsse aus den Denkfaktoren des Neo-Konfuzianismus—Untersuchung der Geschichtshilosophie in der japanischen Moderne

12. *Kitarō Nishida in der Philosophie des 20. Jahrhunderts Mit Texten Nishidas in deutscher Übersetzung* (20人) (Hg. Rolf Elberfeld, Yōko Arisaka) Inoue Katsuhito, Abe Hiroshi, Akitomi katsuya, Arisaka Yōko, Davis, Bret W. Elberfeld, Rolf, Itabashi Yūjin, Keta Masako, Maraldo, John C. Matsumaru Hisao, Minobe Hitoshi, Mori Tetsurō, MüllerRalf, Odagiri Takushi, Ōhashi Ryōsuke, Okada Katsuaki, Strala, Jan Gerrit, Tanaka Mikiko, Todoroki Takao, Yusa Michiko Verlag KARLALBER 2014年 担当S. 173-185 (総ページ数493頁)
Titel: Die Eigenständigkeit der Philosophie Nishidas aus ostasiatischer Perspektive betrachtet
13. 『ハイデガー読本』共著 (49名) 秋富克哉・安部浩・古荘真敬・森一郎 (編) 井上克人、村井則夫、池田喬、森秀樹、斎藤元紀、松本直樹、伊藤徹、仲原孝、関口浩、瀧将之、轟孝夫、小林信之、神尾和寿、山本與志隆、山本英輔、相楽勉、松本啓二郎、陶久明日香、小野真、菊地恵善、後藤嘉也、稲田知己、橋本武志、梶谷真司、嶺秀樹、ペーター・トラヴニー [付録作成] 赤塚弘之、阿部将伸、伊藤良司、魚谷雅広、君嶋泰明、木村史人、景山洋平、串田純一、信太光郎、田鍋良生、菅田大介、丸山英幸、三谷竜彦、若見理江、鷲原知宏、渡辺和典 [索引作成] 上田圭委子、金成祐人 法政大学出版局 2014年11月 担当273~282頁 (総ページ数 393頁)
14. 『比較思想から見た日本仏教』共著 (28名) 末木文美士 (編) 井上克人、アンナ・アンドレーワ、亀山隆彦、米田真理子、前川健一、滝澤修身、西村玲、肖琨、田中実マルコス、嘉指信雄、オリオン・クラウタウ、エンリコ・フォンガロ、坂本慎一、阿部仲麻呂、永井晋、冲永宜司、セビリア・アントン、中島隆博、西平直、Woo Sung HUH、坂井祐円、岡本貴久子、ランジャナ・ムコパデイヤ、上野景文、高橋勝幸、ルーベン・アビト、稲賀繁美 山喜房佛書林 2015年12月 担当 81~107頁「正中の宗論とその背景」(総ページ数547頁)
15. *Globalizing Japanese Philosophy as an Academic Discipline* (Eds. Ching-yuen Cheung / Wing-keung Lam) (16人) Inoue Katsuhito, James W. Heisig, Jacynthe Tremblay, Raquel Bouso, Alfonso Falero, Curtis Rigsby, Satofumi Kawamura, Mayuko Uehara, Michiko Yusa, Liao Chin-ping, Lam Wing-keung,

Wong Yiu-hong, Yosuke Takehana, Taguchi Shigeru, Gereon Kopf, Yasuo Kobayashi) V&R unipress, National Taiwan University Press 2017/4 担当 S.167~172 (総ページ数285頁)

Title: The Topic of Environmental Issues and The Japanese Philosophy

16. 『日本思想史事典』項目「天台本覚思想」丸善出版 2020年2月 担当282~283頁 (総ページ数 718頁)
17. 『梅原日本学の源流』共著 (10名) 小川侃 (編) 有福孝岳、天野雅郎、金田 晋、井上克人、梅原賢一郎、日下部吉信、やすいゆたか、梅原猛、禰宜田政信 京都大学学術出版会 2021年 4月 担当147~170頁「黒暗淵の面の如く——「哲学者」梅原猛の魅力」(総ページ数333頁)

【学術論文】

1. 現象学と藝術表現の問題 『東洋学術研究』第20巻第2号 東洋哲学研究所編 1981年10月 148~172頁
2. 世界の現出と「生ける現在」 『哲學』第33号 日本哲学会編 1983年5月 170~180頁
3. 人格の成立について—フッサールの時間論を手引きとして 『倫理学研究』第14集 関西倫理学会編 1984年3月 13~23頁
4. ハイデッガーに於ける「同じもの」への問いによせて 『哲学』第12号 関西大学哲学会編 1986年10月 80~103頁
5. 修と証のあいだ—道元の疑団をめぐって 『南都佛教』第58号 東大寺南都仏教研究所編 1987年6月 1~18頁
6. 〈時〉と〈鏡〉 『哲学』第14号 関西大学哲学会編 1990年1月 375~398頁
7. 初期禅宗に於ける本覚的思惟—『大乘起信論』と初期禅宗の立場 『関西大学東西学術研究所紀要』第25輯 関西大学東西学術研究所編 1992年3月 1~21頁
8. 親鸞に於ける横超の論理 『関西大学 文學論集』第42巻第4号 関西大学文学会編 1993年3月 1~93頁
9. 道元の修証観 『関西大学 文學論集』第44巻第1-4 合併号 関西大学文学会編 1995年3月 265~283頁

10. Über die Philosophie Nishidas〔独文〕 『哲学』第16号 関西大学哲学会編
1995年3月 1～11頁
11. 修と証の〈あいだ〉—道元の修証観をめぐって 『日本思想史学』第27号 日本
思想史学会編 1995年9月 61～72頁
12. 道元の仏性観とその哲学的意味 『関西大学 文學論集』第45巻第2号 関西大学
文学会編 1995年12月 29～44頁
13. 道元とハイデッガー—〈非思量〉と〈存在の思索〉 『比較思想研究』第22号
比較思想学会編 1996年5月 72～79頁
14. 修と証の〈あいだ〉—田辺・西田哲学の道元理解をめぐって 『人間存在論』
第3号 京都大学大学院人間・環境学研究科総合人間学部『人間存在論』刊行会
編 1997 年3月 163～177頁
15. 明治期における西田幾多郎の倫理的課題—西田の思惟に見る宋学的伝統 『關
西大学 文學論集』第50 巻第3号 関西大学文学会編 2001年3月 105～126頁
16. 修と証のあいだ—西田哲学の「逆対応」の論理を手懸りに 『関西大学東西学
術研究所創立五十周年記念論文集』 関西大学東西学術研究所編 2001年10月
27～43頁
17. 物をめぐる思索 『現象学年報』17号 日本現象学会編 2001年11月 1～12頁
18. ハイデッガーにおける思索の由来と既在的自同性について 『哲学』第21号
「渡部菊郎先生追悼論集」 関西大学哲学会編 2002年3月
19. 日本の近代化と宋学的伝統 『近代日本を読み直す』（実存思想論集17巻） 実
存思想協会編 理想社 2002年10月 55～81頁
20. 〈時〉と〈鏡〉—道元・西田・ハイデッガーの思索をめぐって— 『哲学』第22号
「丹治昭義教授古稀記念論集」 関西大学哲学会編 2003年3月 39～74頁
21. 西田哲学における宋学的倫理観 『倫理学研究』第33号 関西倫理学会編 2003
年4月 60～74頁
22. 明治期における宋学的伝統と近代化 『アルケー』第11号 課題研究「伝統文化
と近代化」 関西哲学会編 2003年6月 137～148頁
23. 自然・身体・表現—現象学と藝術的表現行為 『哲学』第23号「柏木隆夫先生
追悼論集」 関西大学哲学会編 2003年9月 103～130頁
24. 田辺哲学と道元禅—特に『正法眼蔵哲学私観』をめぐって— 『求真』第10号

求真会編 2003年12月 2～14頁

25. 縁起と性起—華嚴教学の比較思想論的究明 平成13年度～平成15年度科学研究費補助金〔基盤研究(B)(2)〕研究成果報告(課題番号：13410006)『「大乘起信論」と法蔵教学の実証的研究』所収 2004年3月(上記) 1～61頁
26. 死と頽落—『有と時』に於ける覆蔵性の問題 『哲学』第24号「山岡泰造教授古稀記念論文集」 関西大学哲学会編 2004年3月 367～393頁
27. 京都学派の哲学と仏教 『比較佛教文化国際學術研討會・論文集』(四) 中華民國・佛光人文社会學院・宗教學系／佛教研究中心／生命学所 佛光山文教基金會編 2004年11月 1～11頁
28. 純粹經驗の論理—〈統一的或者〉が意味するもの 『西田哲学会年報』第2号 西田哲学会編 2005年7月 41～56頁
29. 東洋的思惟の特質と京都学派の哲学 『哲学』第25号「物部晃二先生退任論集」 関西大学哲学会編 2005年10月 247～273頁
30. 明治期アカデミー哲学の系譜—「現象即實在論」をめぐって— 『關西大学 文學論集』第55卷第4号 2006年3月 1～29頁
31. 凜風の精神—明治のストイシズム 『關西大学 文學論集』第56卷第2号 2006年10月 1～33頁
32. 經驗と超越—禪における〈覺〉とその既在的直接性について— 『日本の哲学』第7号 特集「經驗」 日本哲学史フォーラム編 昭和堂 2006年12月 58～75頁
33. Die metaphysische Systemlehre im Neo-Konfuzianismus bei Zhūzǐ *Wiener Jahrbuch für Philosophie*, Bd. 38/2006, S. 191-201
34. 明治期におけるショーペンハウアー哲学の受容について—井上哲次郎、R・ケーベル、三宅雪嶺に見る本体的一元論の系譜— 『ショーペンハウアー研究』第12号 日本ショーペンハウアー協会編 2007年6月 44～69頁
35. 無限とイマージュ—長谷正當『心に映る無限—空のイマージュ化』が示唆すること 『宗教哲学研究』No. 25 京都宗教哲学会編 昭和堂 2008年3月 95～105頁
36. 形なきものの形、声なきものの声 『場所』第七号 西田哲学研究会編 2008年4月 1～18頁
37. 明治期以降の日本の哲学と仏教思想 『2008 韓國佛教學結集大會論集』 韓國佛教学會編 2008年5月 458～465頁

38. 明治期アカデミー哲学の系譜とハイデッガーにおける形而上学の問題—如来蔵思想とユダヤ・ヘブライ的思惟の収斂点— 電子ジャーナル『Heidegger-Forum』第3号 2009年6月 56～87頁
39. 時と鏡—西田哲学における「実在」の論理 『西田哲学会年報』第6巻 西田哲学会編 2009年7月 19～40頁
40. Deus Quatenusの哲学—スピノザ解釈をめぐる石沢要先生と田辺との接点— 『求真』第16号 求真会編 2009年12月 1～15頁
41. 西田幾多郎と明治の精神 『点から線へ』第55号 石川県西田幾多郎記念哲学館編 2010年2月 70～103頁
42. 西田哲学に見る禅仏教の特質 『宗教研究』第84巻364号第1輯 日本宗教学会編 2010年6月 101～125頁
43. 科技時代朱子學的倫理性課題 『台湾大学・人文社会高等研究院院訊』第五巻第四期 2010年12月 29～32頁
44. 西田哲学における実在の論理—〈体・用〉論の視座から—〔課題研究：西田哲学の論理基盤を問う〕 『アルケー』第19号 関西哲学会編 2011年7月 1～15頁
45. 西欧的知性と東アジアの叡智—比較思想の観点から— 『關西大学 文學論集』第61巻第1号 関西大学文学部編 2011年7月 1～16頁
46. 西欧的知性とその運命—東洋的叡智に託するもの 『関西大学東西学術研究所研創立六十周年記念論文集』 関西大学東西学術研究所編 関西大学出版部 2011年10月 1～18頁
47. 鈴木大拙の禅思想に寄せて—般若即非の真如觀から見えてくるもの 『宗教哲学研究』第29号 昭和堂 2012年3月 41～56頁
48. 『対談評釈 イエスの言葉／禅の言葉』に寄せて 『東西宗教研究』第11号 東西宗教交流学会編 2012年7月 107～144頁
49. 内藤湖南と近代の「知」 『關西大学 文學論集』第63巻第1号 関西大学文学部編 2013年7月 1～17頁
50. 〔主題報告〕西欧的近代化における東アジアの叡智とその変遷 『東アジアと日本学』厦門大学外文学院日語系・厦門大学日本語教育研究中心編 厦門大学出版社 2013年8月 62～73頁
51. Characteristics of Eastern Thought and the Philosophy of Kyoto School

- Humanities & Social Sciences: Journal Siberian Federal University*, 2013/6, pp.1407-1422
52. 純粹禪を求めて—花園上皇と宗峰妙超— 『禪學研究』第92號 禪學研究會編
2014年3月 49～77頁
53. 内藤湖南の歴史認識における哲学的背景 『研究論集』第11集 河合文化教育研究所編 2014年3月 71～91頁
54. 明治期アカデミー哲学とその系譜—本体的一元論と有機体の哲学 『国際哲学研究』3号 東洋大学国際哲学研究センター編 2014年3月 81～94頁
Meiji-Era Academic Philosophy and Its Lineage—Monism of the true form and organismic philosophy *Journal of International Philosophy* No. 3, Edited & Published by International Research Center for Philosophy, Toyo University
2014年3月 pp. 271-289
55. 道は無窮なり—道元の身学道 『実存思想論集29号 道・身体・修行』実存思想協会編 理想社 2014年6月 61～84頁
56. 八角の磨盤、空裏を走る—大燈国師と玄慧法印— 『關西大学 文學論集』第64卷第2号 關西大学文学部編 2014年9月 41～63頁
57. 内藤湖南歴史認識的哲学背景 (呂超・訳) 『漢學研究』第17集・2014 年秋冬卷 (主編：閻純德) 北京語言大学主宰 學苑出版社 2014年12月 325～346頁
58. 明治哲学界—有機体哲学及其系譜 (生李並・訳) 『日本哲学与思想研究文集 [卞崇道先生記念号輯]』(主編：王青) 中国社会科学出版社 2015年2月 201～210頁
59. (講演論文) 人間—この問われるべきもの—露現と覆藏の〈現場〉から— 『哲学』第34号 關西大学哲学会 2016年3月 1～25頁
60. The Philosophical World of Meiji Japan—The Philosophy of Organism and Its Genealogy *European Journal of Japanese Philosophy* Number I・2016, pp. 9-30
61. The Topic of Environmental Issues and The Japanese Philosophy
Globalizing Japanese Philosophy as an Academic Discipline, pp. 167-172
(eds.: Ching-Yuen Cheung/Wing-Keung Lam) National Taiwan University Press 2017
62. 詩の言葉と宗教的超越性 『日本の哲学』第18号 日本哲学史フォーラム編 昭和

堂 2017年12月 40～58頁

63. ハヤトロギア・エヒエロギア・オントロギア—新たなキリスト教倫理へ向け
て— 『小田淑子先生退職記念論集』 小田淑子先生退職記念論文集刊行委員会
編 2018年2月 33～64頁
64. ゴータマ・シッダールタの思惟—比較思想論から見た一考察— 『關西大学 文
學論集』第68巻第1号 關西大学文学会編 2018年7月 1～28頁
65. 西田哲学に於ける禅思想の特質 『国際禅研究』第2号 東洋大学東洋学研究
所・国際禅研究プロジェクト編 2018年10月 64～84頁
66. 仁斎・徂徠・仲基における漢籍の解釈学 『東アジア文化交渉研究』第13号 中
谷伸生教授古稀記念号 關西大学大学院東アジア文化研究科編 2020年3月 337
～ 348頁
67. 日本文化の根底にあるもの 『關西大學 文學論集』第70巻1-2号 關西大学文学
会編 2020年9月 1～29頁
68. 「真如隨縁」の相即論に関する一考察 『仏教思想の展開 花野充道博士古稀記
念論文集』 花野充道博士古稀記念論文集刊行会編 2020年10月 241～262頁
69. 鈴木大拙の思想へ／思想から一般若即非の真如觀— 『国際禅研究』第6号 東
洋大学東洋学研究所・国際禅研究プロジェクト編 2020年11月 105～130頁
70. 若き西田幾多郎と明治という時代——二〇二〇年度西田幾多郎哲学講座 (9)
(二〇二一年三月十三日) 『点から線へ』第71号 石川県西田幾多郎記念哲学
館編 2022年3月 26～49頁
71. 明治期アカデミー哲学の系譜から見た西田哲学——二〇二〇年度西田幾多郎哲
学講座 (10) (二〇二一年三月十四日) 『点から線へ』第71号 石川県西田幾
多郎記念哲学館編 2022年3月 50～69頁

【翻訳 (単行本)】

1. 『地中海哲学紀行 [上]』(クラウス・ヘルト著) 共著 (5人) 井上克人 (監
訳)、國方栄二 (監訳)、北尻祥晃、勝道興、後藤博和 晃洋書房 1996年5月 担
当 1～63頁 (総ページ数 246頁)
2. 『地中海哲学紀行 [下]』(クラウス・ヘルト著) 共著 (5人) 井上克人 (監
訳)、國方栄二 (監訳)、北尻祥晃、森泰一、後藤博和 晃洋書房 1998年3月 担

当 160～200頁 (総ページ数 224頁)

3. 『身体と感情の現象学』(ヘルマン・シュミッツ著) 共著 (14人) 小川侃、井上克人、石田三千雄、伊藤徹、魚住洋一、氣多雅子、品川哲彦、高田珠樹、中敬夫、中山善樹、松井良和、水谷雅彦、宮原勇、鷺田清一 産業図書 1986年9月 担当 301～347頁 (総ページ数 380頁)
4. 『ミシェル・フーコー—構造主義と解釈学を超えて』(H.L. ドレイファス/P. ラビノウ著) 共著 (7人)、井上克人、北尻祥晃、高田珠樹、山形頼洋、山田徹郎、山本幾生、鷺田清一 筑摩書房 1996年7月 担当 79～124頁、308～342頁 (総ページ数 380頁)
5. 『ハイデガーと解釈学的哲学』(オットー・ペゲラー著) 共著 (8人)、伊藤徹 (監訳)、井上克人、吉本浩和、加藤恵介、森秀樹、佐々木正寿、柳澤有吾、後藤博和 法政大学出版局 2003年12月 担当 59～123頁 (総ページ数 414頁)

【翻訳 (論文)】

1. オットー・ペゲラー「ハイデガーと老子—東西の対話」『理想』〔季刊〕634号 (122頁～132頁) 635 号 (122頁～135頁) 636号 (106頁～120頁) 連載 1987年 4・7・10月
2. (共訳：三村尚彦氏) K. ヘルト「フッサールとハイデガーにおける本来的時間の現象学」『思想』第966号 2004年10月 78～91頁
3. (共訳：鷺原知宏) ダミール・バルバリッチ「放下としての有」『理想』681号 2008年9月 186～198頁
4. (単独訳) ゲオルク・シュテンガー「ハイデッガーと西田における経験という現象—〈思惟の経験〉と〈経験の思惟〉—」『理想』681号 2008年9月 96～113頁

【訳注】

1. 『大乘起信論義記』研究 (一) 『東西学術研究所紀要』第三十一輯 関西大学 東西学術研究所編 1998年3月

2. 『大乘起信論義記』研究（二） 『東西学術研究所紀要』第三十三輯 関西大学
東西学術研究所編 2000年3月
3. 『大乘起信論義記』研究（三） 『東西学術研究所紀要』第三十四輯 関西大学
東西学術研究所編 2001年3月
4. 『大乘起信論義記』研究（四） 『東西学術研究所紀要』第三十六輯 関西大学
東西学術研究所編 2003年3月
5. 『大乘起信論義記』研究（五） 『東西学術研究所紀要』第三十七輯 関西大学
東西学術研究所編 2004年3月 （井上克人編）『「大乘起信論」と法蔵教学の実証的研究』平成13年度～平成15年度（2001年～2003年）科学研究費補助金〔基盤研究(B)(2)〕研究成果報告書（課題番号：13410006）に収載

【その他（外部資金の獲得状況）】

1. 2001年度～2003年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(2) 研究代表者 「『大乘起信論』と法蔵教学の実証的研究」
2. 2013年度～2015年度科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究代表者 「内藤湖南のアジア観の形成と近代日中学術交流」

【その他（共同研究）】

1. 京都大学附属図書館『清家文庫』貴重漢籍目録（稿）『関西大学文学論集』第39巻第3号
2. 関西大学文学会編（河田悌一、青木晃、吾妻重二各教授との共同研究） 1990年2月

【その他（学会発表）】

1. 「生ける現在」と行為的自覚 関西哲学会第33回大会〔於：立命館大学〕
1980年10月
同上〔梗概〕単著 『関西哲学会紀要』第16冊

2. 修と証のあいだ—道元の疑団をめぐって 1994年度日本思想史学会大会〔於：東北大学〕 1994年10月
3. 道元とハイデッガー—〈非思量〉と〈存在の思索〉をめぐって 比較思想学会第22回全国大会〔於：龍谷大学〕 1995年10月
4. 道元の「本証妙修」の立場—修に於ける証の超越性について 比較思想学会近畿地区第7回大会〔於：仏教大学〕 1996年7月
同上〔梗概〕 単著 1997年3月 『比較思想研究』第23号別冊
5. 親鸞と道元—行信証の論理 日本宗教学会第56回大会〔於：慶応大学〕 1997年9月
同上〔梗概〕 単著 1998年3月 『宗教研究』第71巻315号第4輯
6. 西田哲学に見る宋学的伝統 2000年度日本思想史学会大会〔於：東北大学〕 2000年10月
7. 西田哲学における宋学的倫理観〔委託発表〕 2001年度関西倫理学会第52回大会〔於：阪南大学〕 2001年11月
8. 明治哲学界におけるショーペンハウアーの受容について—井上哲次郎と R・ケーベルに見る本体的一元論の系譜— シンポジウム「ショーペンハウアーと日本の哲学」(パネル：兵頭高夫、板橋勇仁) 日本ショーペンハウアー協会第19回全国大会〔於：九州産業大学〕 2006年11月
9. 時と鏡—西田哲学に於ける実在の論理 西田哲学会第6回年次大会〔於：石川県西田幾多郎記念哲学館〕 2008年7月26日
10. 明治期アカデミー哲学の系譜とハイデガーにおける形而上学の問題—如来蔵思想とユダヤ・ヘブライ的思惟との収斂点 ハイデガー・フォーラム第3回大会〔於：学習院大学〕 2008年9月21日
11. 西田哲学と禅仏教 日本宗教学会2009年度大会パネル(小坂国継・浅見洋・高坂史朗、司会：藤田正勝、コメンテーター：森哲郎)〔於：京都大学〕 2009年9月13日
12. 西田哲学における実在の論理—〈体・用〉論の視座から— 関西哲学会第63回大会・課題研究「西田哲学—その論理基盤を問う—」(パネル：中畑正志、沖永宜司 司会：嶺秀樹 特定質問：加藤泰史)〔於：同志社大学〕 2010年10月17日
13. 上田閑照・八木誠一『対談評釈 イエスの言葉／禅の言葉』によせて 東西宗教交流学会第30回(2011年度)大会〔於：花園大学〕 2011年9月6日

14. 内藤湖南と近代の「知」 東アジア文化交渉学会・第4回国際学術大会パネル
「内藤湖南と東アジア近代」〔劉雨珍（南開大）・劉岳兵（南開大）・錢婉約（北京語言大）／コメンテーター：陶徳民氏（関西大）〕〔於：韓国・高麗大学校〕
2012年5月12日
15. 純粹禪を求めて—花園上皇と宗峰妙超 第84回禪学研究大会〔於：花園大学〕
2013年11月30日
16. 正中の宗論とその背景 日文研共同研究会「日本仏教の比較思想的研究」（研究
代表者：末木文美士） 2014年度第 1回共同研究会 国際日本文化研究センター
2014年4月26日
17. 京都学派と大乘仏教—西田哲学の系譜 国際シンポジウム「Chan・Zen・
Seon：禪的形成及其在世界的展開」主催：武漢大学国際禪文化研究中心&日本
東洋大学東洋学研究所「国際禪研究センター」〔於：武漢大学〕 2018年5月4日
18. 日本近世における古典テキストの解釈学 第6回中日哲学フォーラム〔於：中国
広州中山大学〕 2019年9月21日

【関西大学東西学術研究所研究例会報告】

1. 「大乘起信論」と初期禪宗の立場 1990年10月
同上〔要旨〕 単著 1991 年 3 月 『関西大学東西学術研究所々報』第 53 号
2. 道元の仏性観と「起信論」 1994年10月
同上〔要旨〕 単著 1995 年 9 月 『関西大学東西学術研究所々報』第 61 号
3. 「信」の構造—道元と親鸞 1998年6月
同上〔要旨〕 単著 1999 年 3 月 『関西大学東西学術研究所々報』第 68 号
4. 道元とハイデガー—〈非思量〉と〈存在の思索〉をめぐって 2001年1月
同上〔要旨〕 単著 2001 年 3 月 『関西大学東西学術研究所々報』第 72 号
5. 明治の哲学界—有機体の哲学とその系譜 2007年6月
同上〔要旨〕 単著 2008 年 3 月 『関西大学東西学術研究所々報』第 86 号

【その他（講演・シンポジウム）】

1. Über die Philosophie Nishidas 講演 1994年1月 ドイツ・ヴッパタール大学
ブロックゼミナール
2. 「自然法爾のころ—親鸞のおしえ」 & 「道は無窮なり—道元の修証観」 「平成11年度福井ライフ・アカデミー専門講座」 主催：福井ライフ・アカデミー
(於：福井県生活学習館) 2000年1月29日
3. 「日本的思惟の特質—おのずから」、「西田哲学に見る宋学的伝統」(講座)
2000年8月19日～8月22日 「第 20 回夏期哲学講座」 主催：西田幾多郎博士
頌徳会・宇ノ気町教育委員会 (於：西田記念館&宇ノ気社会教育福祉会館)
4. 道元の「本証妙修」の立場—修に於ける証の超越性について— 比較思想学会・
近畿地区第7回大会 (於：仏教大学) 1996年7月
5. 西田・田辺哲学における道元理解 「西田・田辺記念講演会」 主催：西田・田
辺記念会 (於：京都大学) 2001年6月
6. 田辺哲学と道元禅—特に『正法眼蔵哲学私観』をめぐって— 求真会第9回研究
会 (於：群馬大学北軽井沢研修所・田辺記念館) 2003年8月
7. 純粹経験の論理—〈統一的或者〉が意味するもの シンポジウム「純粹経験」
西田哲学会・第二回年次大会 (於：上智大学) 2004年7月
8. 京都学派の哲学と佛教 シンポジウム「比較佛教文化 學術検討会」 主催：台
湾・佛光人文社会學院 (於：宝塚市・大阪佛光山寺) 2004年11月27・28日
9. Die metaphysische Systemlehre im Neo-Konfuzianismus bei Zhūzǐ
Denkwerkstatt für vergleichende Philosophie, Institut für Philosophie der
Universität Wien 2005年3月
10. 経験と超越—宗教的自覚における既在的直接性について— 主催：土井道子記念
京都哲学基金 (於：京都ガーデンパレス) 2005年12月
11. 親鸞と道元—日本の仏教思想 第35回関西大学吹田市民講座 共催：吹田市教育
委員会・関西大学「第2コース：日本の宗教・世界の宗教—知的理解のすすめ
—」(於：関西大学) 2006年10月12日
12. 環境と人間—場所的論理と有機的自然観 シンポジウム「京都学派の遺産と継
承—環境と人間」(於：京都大学地球環境学大学院・三才学林) 2007年3月
13. 明治期以降の日本の哲学と仏教思想 2008年度韓國佛教学會結集大會 (於：ソ
ウル・東國大学校) 2008年5月17日

14. 2008年度夏期哲学講座（於：石川県西田幾多郎記念哲学館） コース別研究会：井筒俊彦『意識の形而上学—「大乘起信論」の哲学』を読む（8月24日）グループ別研究会：西田幾多郎と明治の精神（8月25日） テーマ別研究会：道は無窮なり—道元『正法眼蔵』の世界（8月25日）
15. 地球環境問題と日本哲学の課題 第3回日本思想コロキウム（サン・パウロ〔ブラジル〕） 2008年11月28日・29日（Uberlandia 大学〔ブラジル〕） 2008年12月1・2日（Unicamp大学〔ブラジル〕） 2008年12月4日
16. Deus Quatenusの哲学—石沢要先生のスピノザ論と田辺哲学の接点 第15回求真会（於：群馬大学北軽井沢研修所） 2009年8月21日
17. 〔基調講演〕科学技術時代における朱子学の倫理的課題 朱子生誕880年記念国際シンポジウム「朱子学と近世・近代の東アジア—テキストをふまえたアプローチ—」 主催：関西大学文学部・国立台湾大学人文社会高等研究院 協催：関西大学文化交渉学教育研究拠点（ICIS）・台湾朱子学研究協会・世界朱氏連合会（於：関西大学100周年記念会館） 2010年9月10日
18. 〔基調講演〕『善の研究』という書物—著者・西田幾多郎の位相 『善の研究』刊行百周年記念国際シンポジウム 主催：京都大学文学研究科（於：京都大学文学部・第三講義室） 2010年12月19日
19. 〔講演〕西欧的知性と東アジアの叡智—比較思想の観点から— 第2回東亜文化交渉学方法論研究会 主催：国立台湾大学人文社会高等研究院 協催：東亜文化交渉学会（於：国立台湾大学人文社会高等研究院） 2011年3月12日
20. 〔講演〕 Die Eigenständigkeit der Philosophie Nishidas aus ostasiatischer Perspektive betrachtet Nishida Kitaro in der Philosophie des 20. Jahrhunderts— Zum 100. Erscheinungsjubiläum der Studie über das Gute (Zen no Kenkyu, 1911) — Internationale Tagung an der Hildesheim Universität 2011年9月9日
21. 〔講演〕科学技術時代における東洋的叡智の意義—「格物窮理」をめぐる— 日独交流150周年記念 哲学シンポジウム「人間と環境—我々はどうに考えるべきか—」（於：関西学院大学） 2011年9月18日
22. 〔講演〕 The Topic of Environmental Issues and The Japanese Philosophy International Conference: Japanese Philosophy as an Academic Discipline Chinese University of Hong Kong (CUHK) 2011年12月10・11日

23. 〔主題講演〕西欧近代化における東アジアの叡智とその変遷 中日国交回復および厦門大学日語言語文学科設立40周年記念 国際シンポジウム「東アジアと日本学」(於：厦門大学) 2012年7月3日
24. 〔講演〕明治の哲学界—有機体の哲学とその系譜 国際井上円了学会主催・東洋大学国際哲学センター・第一ユニット研究会 (於：東洋大学・白山キャンパス) 2012年12月7日
25. 〔講演〕永遠とイマージュ—直接性と媒介性 宗教哲学フォーラム「宗教経験における「個の自覚」と普遍性—古来よりの宗教思想及び現代の宗教哲学を通しての思索—」(於：上智大学) 2013年3月10日
26. 〔基調講演〕内藤湖南の歴史認識における哲学的背景 「近代における中国と世界の相互認知—内藤湖南と中国」国際学術会議 関西大学「内藤湖南研究プロジェクトチーム」(日本文科省科研費基盤研究(B)&中国天津市・南開大学世界近現代史研究中心・日本研究院・日語系共催 (於：中国天津市・南開大学) 2013年 9月8日
27. (講演) 西欧的知性と東アジアの叡智 第四回日中哲学フォーラム (於：北京外国語大学・北京日本学研究中心) 2014年9月21日
28. (講演) 近代日本における西洋哲学の受容と展開 比較思想学会 第42回大会 (於：東洋大学) 2015年6月13日
29. (講演) 人間—この問われるべきもの 主催：土井道子記念京都哲学基金 (於：京都ガーデンパレス) 2015年9月2日
30. (講演) 詩の言葉と超越性 主催：土井道子記念京都哲学基金 (於：京都ガーデンパレス) 2016年12月22日
31. (講義) 科学技術時代における朱子学の倫理的課題—〈西欧的知性〉と〈東洋の叡智〉— 第121回復幸実学共働学習会 主催：(非営利) 一般財団法人 京都フォーラム 樹福実学共働学習会 2017年8月18日 (於：大阪駅前第三ビル 24階 樹福書院 会議室)
32. (基調講演) 近代の〈知〉を超えるもの—東アジアの叡智「内発的公共性」の提言— 主催：(非営利) 一般財団法人 京都フォーラム (於：大阪府立国際会議場) 2017年11月2日
33. 「鈴木大拙研究公開ワークショップ」司会およびコメンテーター 提題者：安藤礼二・嵩宣也・長尾佳代子 (司会担当：安藤礼二のみ) 主催：科研「日米の

新資料による日本仏教グローバル化過程の研究—鈴木大拙を事例として」 共催：2018年度三菱財団人文科学助成「鈴木大拙関係松ヶ丘文庫所蔵資料からみた近代禅仏教のネットワークに関する研究」

34. 拙著『時と鏡—道元・西田・大拙・ハイデガーの思索をめぐって』合評会（講義）人間—この問われるべきものの露現と覆蔽の〈現場〉から 主催：（非営利）一般財団法人 京都フォーラム 樹福実学共働学習会（於：大阪駅前第三ビル 24階樹福書院 会議室） 2019年10月5日
35. ワークショップ「いま日本で哲学するということ」企画、趣旨説明および司会登壇者：末木文美士・岡田勝明・安部浩 関西哲学会第72回大会（於：同志社大学 良心館） 2019年10月20日
36. 鈴木大拙の思想へ／思想から—般若即非の真如観— 鈴木大拙シンポジウム「鈴木大拙の思想とその史的意義」 提題者：井上克人、竹村牧男、伊吹敦、飯島孝良（於：東洋大学125記念館） 2020年2月16日

【(市民) 講座】

1. 武士道の精神（2014年10月～2015年3月 全6回） 毎日文化センター・2014年度〔秋の講座〕
2. 武士道の精神（2015年4月～2015年9月 全6回） 毎日文化センター・2015年度〔春の講座〕
3. 西田哲学を読み解く6つのキーワード 日独文化研究所「哲学講座」第1回：2015年 5月31日 第2回：6月28日 第3回：7月12日（於：京都教育文化センター）
4. 知っておきたい日本の思想（2015年10月～2016年3月 全6回） 毎日文化センター・2015年度〔秋の講座〕
5. 宗教から世界を知ろう—関西大学提携口座—（2015年10月～2016年3月 全6回） 毎日文化センター・2015年度〔秋のリレー講座〕（スタッフ：井上克人・小田淑子・宮本要太郎・酒井真道） 2016年2月27日（土）担当
6. 日本人なら知っておきたい神道と神社（2016年10月～2017年3月 全6回） 毎日文化センター・2016 年度〔秋のリレー講座〕（スタッフ：井上克人・宮本要太郎・酒井真道） 2016年10月8日（土） 11月12日（土）担当

7. 西田幾多郎『善の研究』を読む 毎日文化センター・2019年度〔夏の講座〕
(2019年6月～9月 全4回)
8. 西田幾多郎『善の研究』を読む 毎日文化センター・2019年度〔秋の講座〕
(2019年10月～2020年3月 全6回)
9. 武士道精神と禅 (2020年3月7日 於：金沢ふるさと偉人館) 「大拙館講座」
主催：鈴木大拙館 (公益財団法人金沢文化振興財団)
10. 若き西田幾多郎と明治という時代 2020年度西田幾多郎哲学講座石川県西田幾
多郎記念哲学館 2021年3月13日
11. 明治アカデミー哲学の系譜から見た西田哲学 2020年度西田幾多郎哲学講座石
川県西田幾多郎記念哲学館 2021年3月13日

【書評】

1. 竹村牧男『「覚り」と「空」—インド仏教の展開』(講談社現代新書) 『ブデ
ィスト』第40号 FAS協会編 四恩社 1992年6月
2. 久野昭『日本人の他界観』(吉川弘文館 1997年刊) 『死生 実存思想論集
13』 実存思想協会編 理想社 1998年9月 173～177頁
3. 内藤可夫著『ニーチェ思想の根柢』(晃洋書房 1999年刊) 『理想』第673号
「フランス哲学・今—哲学と政治—」 2004年8月 170～173頁
4. HASHI Hisaki : Die Welt der vergleichenden Philosophie-Begegnung der
Kulturen von Ost und West (Edition Doppelpunkt, 2005, Wien) 『比較思
想研究』第32号 比較思想学会編 2006年3月 131～132頁
5. 冲永宜司『心の形而上学—ジェイムズ哲学とその可能性—』(創文社) 『実存
思想論集』第23号「アジアから問う実存」 理想社 2008年4月 173～176頁
6. Zen und Tao. Beiträge zum asiatischen Denken, A. Haselbach, H. Hashi, W.
Gabriel, Wien 2007 Passagen Verlag 『比較思想研究』第34号 (2007年度)
2008年3月 150頁～151頁
7. 永井晋『現象学の転回—「顕現しないもの」に向けて』(知泉書館 2007)
『現象学年報』24巻 日本現象学会編 2008年11月 161～166頁
8. 小坂国継『西洋の哲学 東洋の思想』(講談社 2008) 『図書新聞』2892号

2008年11月1日

9. 小坂国継『東洋的な生きかた—無為自然の道』(ミネルヴァ書房 2008) 『宗教研究』83巻360号第1輯 日本宗教学会編 2009年6月 189～195頁
10. 伴博『人間の哲学 I』(北樹出版 2010) 『比較思想研究』第37号 比較思想学会編 2011年3月 126～128頁
11. HASHI Hisaki, *Kyoto-Schule – Zen – Heidegger. Komparative Philosophie zur globalen Welt*, Wien 2012: Ed. Doppelpunkt 『比較思想研究』第39号 比較思想学会編 2013年3月
12. 斎藤慶典『「实在」の形而上学』 『西田哲学会年報』第10号 西田哲学会編 2013年7月 161頁～165頁
13. 浅見洋『西田幾多郎—生命と宗教に深まりゆく思索』 春風社 2009年5月 ハイデッガー研究会第三論集『科学と技術への問い』 理想社 2012年7月 『比較思想研究』第40巻 比較思想学会編 2014年3月
14. 末木文美士・林淳・吉永進一・大谷栄一編『ブッダの変貌—交錯する近代仏教』(日文研叢書51)(国際日本文化研究センター法藏館 2014年3月刊) 『比較思想研究』第41号 比較思想学会編 2015年3月 173頁～174頁
15. 杉本耕一『西田哲学と歴史的世界—宗教の問いへ』 京都大学学術出版会 2013年12月刊 『宗教研究』第89巻第1号(通号382号) 日本宗教学会編 2015年6月 139頁～146頁
16. 藤田正勝『清沢満之が歩んだ道—その学問と信仰』 法藏館 2015年4月刊 『比較思想研究』第42号 比較思想学会編 2015 3月 150頁～151頁
17. 『西田哲学会年報 第12号』(2015年7月刊) 「西田哲学会年報」第13号 西田哲学会編 2016年7月 163頁～166頁
18. 『続・ハイデガー読本』 法政大学出版局 2016年5月刊 『図書新聞』3274号 (2016年10月15日刊)
19. 末木剛博『日本思想考究—論理と構造』 春秋社 2015年12月刊 『日本の哲学』第17号 日本哲学史フォーラム編 昭和堂 2016年12月 129頁～137頁
20. 板橋勇仁『底無き意志の系譜—ショーペンハウアーと意志の否定の思想』 法政大学出版局 2016年2月刊 『比較思想研究』第43号 比較思想学会編 2017年3月

21. 川合大輔『土田杏村の思想と人文科学——一九一〇年代日本思想史研究』晃洋書房 2016年4月刊 『倫理学研究』第47号 関西倫理学会編 2017年6月 173頁～176頁
22. 小坂国継『近代日本哲学のなかの西田哲学—比較思想的考察』ミネルヴァ書房 2016年9月刊 『西田哲学会年報』第14号 西田哲学会編 2017年7月 115頁～118頁
23. 竹村牧男『『大乘起信論』を読む』春秋社 2017年刊 『比較思想研究』第44号 比較思想学会編 2017年3月 194頁～195頁
24. 竹村牧男『井上円了—その哲学・思想』春秋社 2017年刊 『比較思想研究』第44号 比較思想学会編 2017年3月 200頁～201頁
25. Hisaki Hashi: *Komparative Philosophie für eine globale Welt Kyoto-Schule-Zen-Heidegger* 『比較思想研究』第44号 比較思想学会編 2017年3月 205頁～206頁
26. 末木文美士『仏教からよむ古典文学』角川選書 2018年刊 『比較思想研究』第45号 比較思想学会編 2018年3月 192頁～193頁
27. 竹村牧男『鈴木大拙—日本人のこころの言葉』創元社 2018年刊 『比較思想研究』第45号 比較思想学会編 2018年3月 193頁～194頁
28. 藤田正勝『日本哲学史』昭和堂 2018年 『西田哲学会年報』第16号 西田哲学会編 2019年7月 137頁～140頁
29. 小田切健太郎『中動態・地平・竈—ハイデガーの存在の思索をめぐる精神的現象学』法政大学出版局 2018年刊 『現象学年報』第35号 日本現象学会編 2019年11月 119頁～123頁
30. 冲永宜司『始原と根拠の形而上学』北樹出版 2019年刊 『比較思想研究』第46号 比較思想学会編 2020年3月 194頁～195頁
31. 水野友晴『「世界的自覚」と「東洋」—西田幾多郎と鈴木大拙』こぶし書房 2019年刊 『比較思想研究』第46号 比較思想学会編 2020年3月 191頁～192頁
32. 澤井義次・鎌田繁〔編〕『井筒俊彦の東洋哲学』慶應義塾大学出版会 2018年刊 『宗教哲学研究』第37号 宗教哲学会編 2020年3月 114頁～117頁
33. 水野友晴『「世界的自覚」と「東洋」—西田幾多郎と鈴木大拙』こぶし書房 2019年刊 『実存思想論集』第35巻 実存思想協会編 2020年6月 184頁～186頁

頁

34. 徳永哲也『今を考えるための近世思想：時代と向き合った日欧16人の思想家』
晃洋書房 2020年刊 『倫理学研究』第52号 関西倫理学会編 2022年 171～
174頁
35. 秋富克哉『原初から／への思索——西田幾多郎とハイデッガー』 『宗教哲学研
究』第40号 宗教哲学会編 2023年3月 135～139頁

【コラム、その他】

1. 「時の荘厳—道元の存在観」 季刊誌『CEL』51号「とき（時間）1」大阪ガス
1999年12月 26～28頁
2. 「豊穰の時代—明治、—国立国会図書館所蔵 明治期刊行図書マイクロ版集成—
「歴史、地理・風俗、宗教、伝記」」 『関西大学 図書館フォーラム』第7号
関西大学図書館 2002年7月 26～29頁
3. 関西大学東西学術研究所創立50周年記念国際シンポジウム（2001年10月25日開
催、於：尚文館）Dセッション「自然・風土・人間—異文化理解のために—」趣
旨説明 『関西大学東西学術研究所創立50周年記念国際シンポジウム'01報告書
東と西の文化交流』 関西大学出版部 2004年3月 19～24頁
4. 〈海外事情〉オーストリア現象学会の紹介および 2004年度大会報告 『現象
学年報』第21号 日本現象学会編 2005年11月 171～175頁
5. 比較思想学会第32回大会（2005年6月25日開催 於：関西大学100周年記念会
館）シンポジウム「歴史・経験・論理」趣旨説明 『比較思想研究』第32号 比
較思想学会編 2006年3月 11～13頁
6. コラム「風によせて—生と死のあわい—」 関西大学文学部ホームページ 2007
年8月～9月
7. 風によせて—生と死のあわい— 俳誌『山繭』334号 [上記（8）からの転載]
2007年10月
8. 明治の精神—ストイシズムの系譜 俳誌『山繭』337号～ 343号 山繭発行所
2008年1月～2008年7月
9. 鳶飛魚躍の処 俳誌『山繭』344号山繭発行所 2008年8月

10. 「即物具象」の淵源にさかのぼる—「格物致知」と芭蕉の精神 俳誌『山繭』350 号 山繭発行所 2009年2月
11. 道元と近代日本の哲学者—道は無窮なり— 『大法輪』2月号「特集 これでわかる〈道元〉」第76巻 大法輪閣 2009年2月 109～113頁
12. 考える葦 『葦—大学と家庭の心のかけ橋—』No. 144 秋冬号 関西大学教育後援会編 2009年12月 19頁
13. 芭蕉の境涯 俳誌『山繭』363号 364号 365号（連載） 2010年3～5月
14. 科技時代朱子學的倫理性課題（薄培林・訳） 臺灣大学 IHS Newsletter 第五卷第四期（2010年・冬） 人文社會高等研究院院訊 29～32頁
15. 特別寄稿『藤澤桓夫句集』のこと 俳誌『山繭』380号 山繭発行所 2011年8月
16. 道元禅と親鸞の他力思想—絶対帰依の表現— 『大法輪』2月号「特集 道元禅事典」第79巻 大法輪閣 2012年2月 76～79頁
17. 〔特別寄稿〕〈青〉をめぐる断想 俳誌『山繭』創刊四百号記念号 2013年4月
18. 道元の悟り—非人情への覚悟— 『大法輪』12月号「特集「悟り」の世界を知るために」第 81巻 大法輪閣 2014年12月 106～109頁
19. （座談会）京都の哲学と『哲学研究』（井上克人・藤田正勝・氣多雅子 司会：中畑正志・上原麻有子） 『哲学研究』第六百號記念特集號 京都哲學會編 2016年 12月
20. 道元の哲学思想 『大法輪』7月号「特集 道元が分かる事典」第84巻 大法輪閣 2017年7月 107～113頁
21. （寄稿）著書から見る杉本耕一氏の面影 『日本哲学史研究』別冊「杉本耕一博士追悼号《特集（シンポジウム報告）：「哲学」と「宗教」—杉本耕一の思索—》」 京都大学大学院文学研究科・日本哲学史研究室紀要 2018年7月 4～14頁